

沖縄県民を愚弄し、差別と偏見に満ちたマグルビー在沖総領事は県民に謝罪し、即刻、辞任を求める抗議決議

マグルビー総領事は、9月4日の就任記者会見で「普天間飛行場周辺が特に危険とは認識していない」「世界一が一人歩きしているがその認識は全くない」「どうして回りに住宅地が密集したか不思議である」「オスプレイは安全である」「辺野古に代替施設があったらこれほど異論は出ない」という趣旨を述べている。

同氏は、在日米大使館でモンデール大使の特別補佐官を務めたほか、それ以前に東大大学院などで学び、滞日通算、約10年と言われている。

同氏の経歴からすると、橋本元総理とモンデール駐日元大使の間で、普天間飛行場が返還合意されたことも承知のはずだ。在沖米軍基地の歴史的背景や今日の普天間飛行場の現状について、充分、熟知した上で冒頭の発言をしている事は間違いない。これは、沖縄県民を愚弄し、差別と偏見に満ちた確信的発言であると断ずる。

同氏の発言は、「沖縄の人々は、ごまかしとゆすりの名人」「在沖米軍基地は、もともと田んぼの中にあっただが、今は沖縄の人が周囲に集まってきた」などと沖縄県民を侮辱した発言で更迭されたケビン・メア前国防省日本部長を彷彿とさせる。

まさに同氏の発言は、土地の強制収奪による米軍基地建設の歴史的経緯を無視するものであり、戦後67年間、基地あるがゆえに起こるさまざまな事件・事故により、基地被害や人権侵害に苦しめられている県民を、愚弄・侮辱するものであり、沖縄県の民意に対する重大な挑戦である。

そもそも、普天間飛行場を「世界一危険な基地」と発言したのは、同飛行場を上空から視察した当時のラムズフェルド米国防長官であり、事実誤認も甚だしく同氏の暴言は、もはや看過することはできない。

よって、本町議会は、下記について満身の怒りと抗議の意を込めて強く抗議する。

## 記

- 1 就任記者会見における発言内容を撤回し、県民に謝罪すること。
- 2 在沖米総領事を即刻、辞任すること。

2012年9月13日

沖縄県西原町議会

あて先 米国務長官、駐日米国大使、在沖米国総領事